

今回は町田街道に加えて、西口駅前広場について町田市建設部より説明いたしました(右図参照)。続いて高見教授から駅前広場の設計についてお話し頂き、その後、皆様のご意見を伺いました。

■話題提供 (高見教授)

日本の道路は自動車優先の考え方が定着しており、駅前広場も同様ですが、駅前広場は歩行者のためのものでもあります。バスなど交通機能の確保は確かに必要ですが、同時に人のための広場であり、街の中の広場として駅前広場を考えるべきです。そのために、例として示した丸亀駅前広場のよう、歩行者空間をまとめて確保するなど仕掛けが必要です。現在の市の案は交通機能は満たしていますが、より工夫する余地はあると考えています。

■意見交換 (参加者からの主なご意見)

- ・今の駅や駅前から見える緑は相原らしい特徴。市の案はどこにでもある広場に見える。元々の緑を生かして、緑を眺めながら座れるようなスペースを作ってほしい。  
⇒駅前の大きな木は施工上、切らざるを得ない。しかし、できるだけ緑の量は減らさないようにしたい。(町田市建設部)
- ・広場北側の車が出入する箇所は、歩行者やタクシーと交差する。デッキを伸ばすなど工夫してほしい。
- ・今年度に歩車道境界を決めてしまうそうだが、急ぐのはわかるが皆の意見を聞いて進めてほしい。  
⇒以前実施したアンケートを踏まえて設計している。広場の整備は遅れているため、なるべく早く造らなければいけないと思い、いそぎ進めているところである。急ぐあまりコミュニケーションが不足してしまった点は反省している。(町田市建設部)
- ・広場は盆踊りや山車・みこしの置き場などにも活用できるようにうまく作ってほしい。
- ・以前町会から要望した防火貯水槽の話はどうなっているのか。  
⇒要望に沿って駅前広場の地下に設置する工事を進めている。(町田市建設部)
- ・市の案と高見先生の案をそれぞれ提案してほしい。それを見て議論させていただきたい。  
⇒少しだけ時間を頂いて、できる範囲で変えて良くなるよう市と協議していきたい。(高見)
- ・都市計画決定の絵から変えることで、また都市計画変更が必要など時間がかかったりしないのか。  
⇒都市計画決定の絵は暫定。変更は可能だが、警察協議など調整に改めて時間が必要になる。(町田市建設部)
- ・説明会を開いて頂いているが、仕組みと仕掛けがきちんとしていない。いつ何をやるのかフレームを作って、いつ何をやるのでそのときまでに何を決めるという流れにしてほしい。



新年あけましておめでとうございます。本年も相原のまちづくりに向けて、みちまち推進会議を始め、精一杯取り組んでまいりますのでご協力のほど、よろしくお願いいたします。  
相原駅周辺まちづくりでは、昨年10月以降、権利者の方への会を引き続き実施するとともに、相原ふれあいフェスタへの参加、柏の葉エリアへの視察会の実施、相原みちまち推進会議第3回全体会の開催など、様々な取り組みを行なって参りました。  
今回のまちづくりニュースは拡大版として、それらの模様についてご報告いたします。

10月9日 相原ふれあいフェスタに参加しました!

相原ふれあいフェスタに相原みちまち推進会議として参加、巨大な相原駅周辺の航空写真をジオラマとして展示しました。

巨大なジオラマを設置しました!  
木製の台にパネルを貼り付けたもので  
大人が何人も乗っても大丈夫な頑丈な造りです!

アンダーパスの場所は穴を開けてます。

都市計画道路をテープで表現。  
主な建物や来場の方のお宅には  
白いボックスを置いてみました。

大勢の人でにぎわうフェスタの  
ステージ近くに・・・

指差して場所を確認したり  
上に座って話し込んだり  
ボックスで遊んでみたい・・・?

皆様に思い思いに話して、時間を過ごしていただき、  
相原のまちづくりに改めて関心を持っていただけたのではないかと思います。

10月30日 ”駅前でジオラマ再び!”

ふれあいフェスタで展示したジオラマを、日曜日の相原駅西口前で再び展示しました。フェスタに参加できなかった方、散歩で通りがかった方々など、改めて大勢の方に見ていただきました。



■今後の予定

次回の相原みちまち推進会議は、1月17日に開催します!  
みなさまのご参加をお待ちしています!

相原みちまち推進会議 第4回全体会  
◆開催日時・会場  
日時 1月17日(火曜日)午後7時~  
会場 堺市民センター 大ホール

- 5/8 協議組織立ち上げに関する説明会 (開催済)
- 6/10 相原みちまち推進会議 第1回全体会 (開催済)
- 7/26 まちづくりニュースvol6 発行
- 9/3 相原みちまち推進会議 第2回全体会 (開催済)
- 10/3 まちづくりニュースvol7 発行
- 10/9 相原ふれあいフェスティバル イベント開催
- 10/30 相原駅前イベント
- 11/3 現地視察(千葉県柏市)
- 11/22 相原みちまち推進会議 第3回全体会
- 1/10 まちづくりニュースvol8 発行 **今ココです!**
- 1/17 相原みちまち推進会議 第4回全体会

# 11月3日 柏の葉アーバンデザインセンター (UDCK) 視察

(UDCK: Urban Design Center Kashiwa-no-ha)

相原と同様に大学が近くにあり、行政、住民、大学が協働でまちづくりを進めている千葉県柏市の柏の葉アーバンデザインセンター (UDCK) に視察に伺いました。

車中からの見学ののち、相原へ。帰りの車中ではみなさまから視察の感想やまちづくりについての意見など頂きました。(ページ右下参照)



柏の葉はH17年に開業した新しい鉄道(つくばエクスプレス)の駅を中心として開発が行なわれている地区で、柏市の新しい核として期待されています。駅周辺には高層マンションも立地し、大学や開発事業者、行政、新しい住民、古くから住む住民が協力しながら、まちづくりを進めています。相原とは異なる性格を持つ土地ではありますが、学・公・民の連携でまちづくりを行なっているところが、相原のまちづくりの参考になったのではないかと思います。

その後、バス車中から地区内を見学。地区内には研究施設や大学の施設などが立地しているほか、相原と同じように林や農地も残されていました。

マルシェ見学の後、開発中のマンション群を見学。一体的に開発された敷地内には住民が利用する共用施設など、大規模開発ならではの様々な施設がありました。

柏の葉アーバンデザインセンター (UDCK) は柏の葉駅の目の前にあります。花壇、レンタルサイクル、情報ブースなどを備えた施設です。

UDCK内で模型を用いて、UDCKの三牧副センター長に柏の葉地域やUDCKの取り組みについてご説明を受けたあと、地元の方々が主体的に実施しているイベント「マルシェコロール(市場)」を見学。この日は地元の千葉大学と協力して大学キャンパス構内で行なわれていました。

建物は延床300㎡平屋建の施設で、屋内には開発地域の大きな模型が設置され、机や椅子も置かれており、自由に使うことができます。

屋内も屋外も市民や学生の方々が利用できる空間となっており、視察当日も市民クラブの方や留学生の方などが施設を利用していました。

## UDCK 視察 参加者の感想

- ・まちづくりは造るだけでなく色々なことを考えてやるものだと改めて感じた。
- ・相原とは規模が桁違いに大きい。企業のようにレベルの高い目標を掲げて取り組んでいる。
- ・農業について、飲食店までふくめて広い取り組みをやっているというのはよいのではないかな。
- ・相原で同じことをするのは難しいが、大学を入れた組織体制をつくることはよいのではないかな。
- ・マルシェなど色々な試みをしていることはすごく大切。何ごとでも試みることから始まるのではないかな。
- ・建物が立派、道路が立派なものもよいが、何より住んでよかったと思えるような町をつくっていくべき。
- ・相原とは違って、町としての形態が整っている場所だと感じた。病院も店もあり生活に便利な町。
- ・人が気軽に集まれるようなUDCKの建物のような施設は場所としてやはり大切。
- ・関わっている人達が隔週で集まっているとのこと。綿密なコミュニケーションはとても大事。
- ・相原を省みると、やはり時間がかかりすぎていると感じる。テーマは色々あるが、まず駅前を完成させてほしい。
- ・UDCKのような色々な主体のプラットフォームになる機能はやはり重要と感じる。UDC "A" (Urban Design Center Aihara) か。
- ・柏の葉は畑の中のラスベガスといった雰囲気。お金も含め、大きな力で動かしているまちづくりと感じる。
- ・お金がなくても、情報、ネットワークといったソフト面はいろいろとやり様もある。
- ・相原は柏の葉よりも人のつながりの強いところ。もっと色々なことができる可能性があるのではないかな。
- ・まちづくりのためには、みんなが集まりやすいところに拠点となる場所を用意することも大切ではないかな。

## UDCK 副センター長 三牧さんのお話

UDCKは、柏の葉の公民学の連携のまちづくりのための組織であり、大学や行政、鉄道事業者、不動産事業者、その他専門企業といった民間が協力してまちづくりを行う場・組織として機能しています。

未来のまちづくりのあり方の実験装置となって、公衆電源等のプロジェクトを実施するほか、マルシェをはじめとする市民の方々の活動の中継役となっています。

公民学の連携のためには、ただ皆が集まる機会を設けるだけでなく、実際の拠点をしかも目立つ場所に造ることも重要です。UDCKの施設は、講義や視察、また市民や学生の方が誰でも使える場所にもなっており、その場に模型やパネルがあって、利用する方にまちづくりの情報をお伝えすることができます。



公衆電源プロジェクト

・商業施設や公共空間など、まものいたるところでコンセントが使えるサービスの社会実験  
・利用認証カードとして非接触ICカードを発行・ICカードを自転車利用実験にも兼用し地域カード化  
・電力はすべてグリーン電力を活用し、電気への意識を高めることも目的に

かしわスマートサイクル × 公衆電源サービス